

付着生物ラーバ情報

マボヤの付着は終盤です

1 ラーバ等の出現状況

ラーバ等の調査地点は図1、出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ (通称：ハナ)

ラーバは見られませんでした (表1、図2)。

(2) マボヤ

ラーバは奥内沖で12月6日に5.8個体/m³、12月21日に1.7個体/m³、久栗坂沖で12月12日に6.7個体/m³、12月21日に3.3個体/m³見られました (表1、図3)。

卵は奥内沖で12月6日に19.2個/m³、12月12日に2.5個/m³、12月21日に3.3個/m³、久栗坂沖で12月12日に4.4個/m³、12月21日に0.6個/m³見られました (表1)。

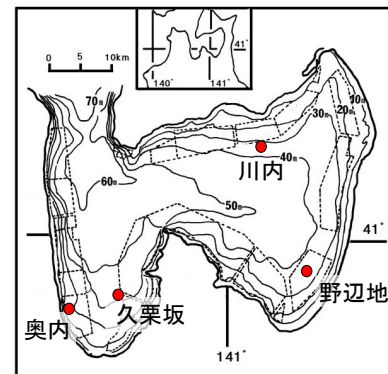


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラホヤ	キヌマトイガイ	ムラサキイガイ	サンカクフジツボ	マボヤ	
							ラーバ	卵
奥内沖	R4.12.6	0.0	0.0	0.0	7.5	0.0	5.8	19.2
	R4.12.12	0.0	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0	2.5
	R4.12.21	0.0	0.0	0.0	15.0	0.0	1.7	3.3
久栗坂沖	R4.12.12	0.0	0.0	0.0	17.8	0.6	6.7	4.4
	R4.12.21	0.0	0.0	0.0	41.4	0.6	3.3	0.6
野辺地沖	R4.12.7	0.0	0.0	0.0	57.8	0.0	0.0	0.0
	R4.12.12	0.0	0.0	0.0	7.0	0.0	0.0	0.0
	R4.12.21	0.0	0.0	0.0	71.1	0.0	0.0	0.0

※久栗坂沖は実験漁場内

2 今後の見込み

ユウレイボヤは例年10月～12月にラーバが出現しますが、今季はほとんど出現していません (図2)。今季はラーバ累積出現数が少なくなっており、現時点では来春の半成貝出荷時のネットへの付着量は少ないことが予測されます。

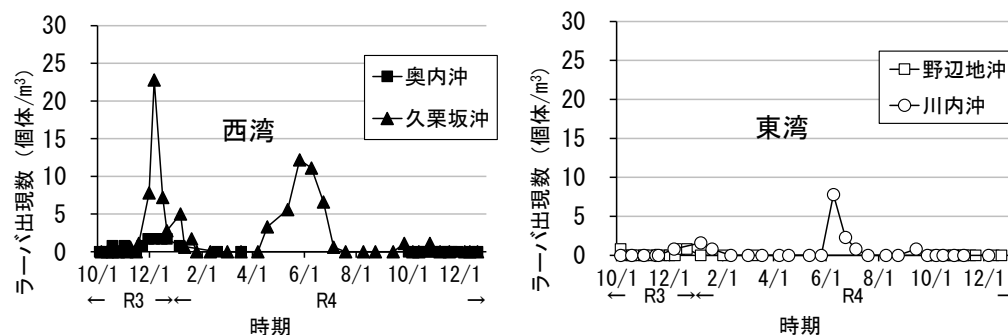


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移 (令和3年10月～令和4年12月)

・平成25年の観察開始から現在までの最大値：西湾 25個体/m³、東湾 10個体/m³

3 マボヤ天然採苗情報

マボヤのラーバ及び卵は東湾では確認されず、西湾では12月6～12日をピークに減少する傾向がみられます。現在の陸奥湾の中層水温は9～12℃台ですが、マボヤのラーバは水温が9℃を下回ると付着が終了するため、マボヤの付着は終盤となっています。

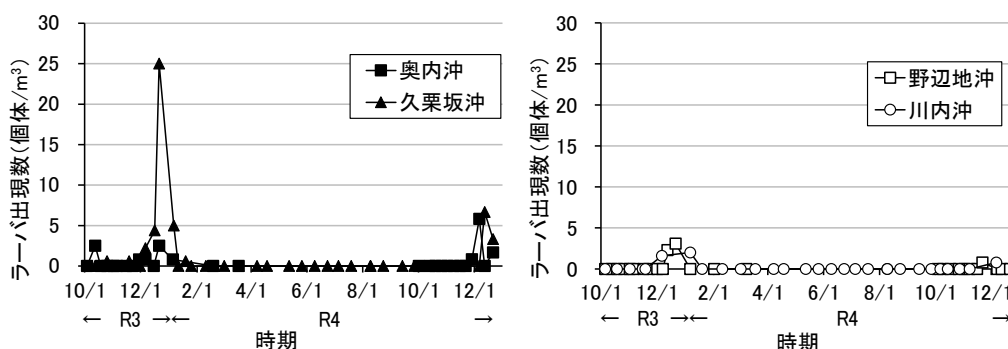


図3 マボヤラーバ出現数の推移 (令和3年10月～令和4年12月)

・平成28年の観察開始から現在までの最大値：西湾 27個体/m³、東湾 5個体/m³

